

# 組織目標評価報告書（平成23年度）

部局名：スポーツ教育センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標	
1) 平成25年度からのスポーツ演習の展開開始に向けて、関連委員会・学部等との協議を開始し、基盤整備を図る。 2) WebClassを活用した健康・スポーツ科学を試行し、評価・改善を行う。 3) スポーツ実習等において、次世代ポートフォリオを試行し、評価・改善を行う。また、WebClass上でのポートフォリオ活用の可能性を検討する。 4) スポーツ実習E(スポーツ教室開催型)、スポーツ実習F(スポーツ指導練習型)の改善を図る。 5) 健康・スポーツ科学(講義・通年:スポーツ講座を含む)を健康とスポーツに区分し、学生への周知を図る。 6) 校友会サークルを対象に、熱中症・AED講習会を開催し、事故予防対策の啓発を図る。	1) 教育開発センターと協議を開始し、教育学部には課程認定を受けるための予備審査書類を文科省に提出し、新しいスポーツ演習の開講に向けた制度上の準備を進めた。 2) 健康・スポーツ科学でWebClassを活用した授業(6コマ)を試行し、教材の改良を行った。 3) スポーツ実習A(5コマ)においてポートフォリオを使用し、さらに改良を加えたポートフォリオを作成した。次年度に使用するポートフォリオも印刷し、より多くのスポーツ実習Aで活用する準備を完了した。 4) スポーツ実習E,Fの改善をはかるため、教材を改良し、印刷した。 5) 健康・スポーツ科学(通年)を健康とスポーツに区分し、予定表を学生に配布すると共にホームページに掲載した。 6) 津島キャンパスではサークル対象の熱中症予防講習会を17回開催し、熱中症発症率を低下させることができた(2010年度3件から本年度0件)。またAED講習会を1回開催した。鹿田キャンパスでは製氷機の利用説明と熱中症予防講習会を2回開催した。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	自己評価
②-1 目標	
1) 熱中症予防対策のための環境測定を継続するとともに、学生への熱中症アンケート調査を行う。 2) 共同研究「新しいシューズの開発」を継続実施し、販売に結びつける。	1) 熱中症予防のための環境測定を継続した。学生への熱中症アンケート調査から、熱中症発症が見られなかったこと、軽度の熱中症自覚者も減少した(2010年度36.2%から本年度17.2%)ことが明らかとなった。また、これまでの研究を学会発表した結果、岡山県保健福祉学会審査委員長賞と日本産業衛生学会良好実践奨励賞を受賞した。 2) 新しいシューズ開発は継続でき、新たなジョギングシューズが開発できた。次年度に発売予定である。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③センター業務領域	自己評価
③-1 目標	
1) 健康・スポーツ科学部会の授業及び使用物品等の管理運営を行う。 2) スポーツ関連の講習会を学生と連携し開催する。 3) スポーツ障害相談・歯科相談・スポーツトレーニング相談・メンタルトレーニング相談業務の広報とともに利用促進を図る。 4) 映像機器・トレーニング機器・体力測定機器等の利用促進を図る。 5) 製氷機管理とともに利用促進を図る。	1) 健康・スポーツ科学部会の組織運営および物品等の管理は効果的・効率的に行うことができた。 2) ラグビークリニック、バスケットボールエキシビション、メンタルトレーニング講習会、トレーニング講習会を学生と連携して開催することができた。 3) スポーツ障害相談等は例年通り実施でき、学外からのメール相談も増えた。(昨年度5件、今年度14件)広報活動が徐々に進んでいる結果と思われる。 4) 映像機器、トレーニング機器、体力測定機器等の利用が昨年度に比べ倍以上の利用率となった。 5) 製氷機を、学生の要望に応え2機増設した。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
④社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
④-1 目標	
1) 中学校等において出前講座などを行い、科学的スポーツ活動の普及に貢献する。 2) 総合型地域スポーツクラブの活動・運営を支援し、地域スポーツの振興に貢献する。 3) 岡山地域のプロ・スポーツクラブや各種競技団体等と連携し、地域スポーツの振興に貢献する。 4) 公開講座であるスポーツ講座を開催し、スポーツや健康に関する知識の普及に貢献する。	1) 出前講座等の講演会・講習会は、平成23年度は 11回実施した。 2) 総合型地域スポーツクラブ: 桃太郎夢クラブの活動および運営支援を行った。また、赤磐市、美咲町のスポーツ振興に講習会や勉強会を通して推進した。 3) ファジアーノ岡山、湯郷ベル、高松ファイブアローズと連携して、マーケティング調査を行った。これは健康・スポーツ科学の授業の一環でもあり、教育活動としても意義深いものとなった。 4) スポーツ講座16回を通じて、スポーツや健康に関する学術的知識の普及を推進した。
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
【総括記述欄】	
<p>教育の質保証をめざした教養教育:スポーツ実習の改革は、ソフト(授業内容、教材開発など)およびハード(制度的整備)ともに極めて順調に進んでいる。また、そのための健康・スポーツ科学部会におけるFD活動も活発に行うことができ(全員参加の研修会を2回開催)、平成25年度からの効果的な改革ができそうである。</p> <p>研究や学生支援は、講習会等を中心に、活発に実施でき、成果を上げることができた。熱中症予防等の講習会は次年度も継続させ、安心安全なサークル活動を支援する。さらに来年度は地域クラブやプロクラブとの共同研究やセンターAGORAとともに地域におけるスポーツ振興をはかる。</p>	